

王凱著 『苦悩に満ちた宮廷画家』 に序す…………… i

まえがき 異文化の衝撃と越境…………… iii

第一章 郎世寧の宮廷生活図…………… 1

一、宮廷の生活環境…………… 3

二、皇族たちの行楽…………… 7

三、皇帝と詩文書画…………… 17

第二章 郎世寧の鶴図と花鳥図…………… 27

一、「松鶴図」…………… 28

二、「花陰双鶴図」…………… 34

三、鶴に関わる花鳥画…………… 37

第三章 郎世寧の「魚藻図」……………51

- 一、魚のモチーフ 52
- 二、西洋における魚のモチーフ 56
- 三、中国における魚のモチーフ 60
- 四、日本における魚のモチーフ 61
- 五、東西折衷の魚の表現 65

第四章 郎世寧の皇帝大閱図……………73

- 一、皇帝の八旗由来 74
- 二、「乾隆皇帝大閱図」の表現 78
- 三、乾隆皇帝大閱の場所 89

第五章 郎世寧の「木蘭図」と「塞宴四事図」……………99

- 一、「木蘭図」と「塞宴四事図」の写生場所 100
- 二、「木蘭図」 105

三、「塞宴四事図」	110
-----------	-----

第六章 清朝戦史における、郎世寧の「戦図冊」の意義……………125

一、準噶爾の遠征	126
二、回部の統一	134

第七章 郎世寧の作品収蔵と年代整理……………151

一、各国における作品の収蔵	152
二、絵画制作の年代調査	165

あとがき これまでの研究と今後の課題……………170

参考文献一覧……………	174
図版出典一覧……………	184
本書各章の初出一覧……………	191